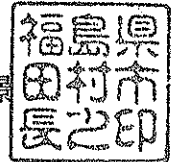




19田建 第55号
平成19年5月1日

国土交通省 道路局長 様

福島県田村市長 冨塚 宥 暁



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について (提出)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありました標記の件について、
別紙意見書を提出いたします。

担当 〒963-4393

福島県田村市船引町船引字馬場川原20番地

田村市 産業建設部建設課 道路維持 大河原

TEL 0247-81-2513 (内線331)

FAX 0247-81-2522

E-mail okawara-takashi-01@city.tamura.

国土交通省 道路局長 様

中期計画の作成にあたっての意見書

「道路特定財源の見直しに関する具体策」が昨年12月に閣議決定され、今後それらに基づいた施策を検討中とのことで、意見を述べさせていただきます。

田村市は、平成17年3月1日に福島県田村郡の旧4町1村が合併し、新市「田村市」が誕生いたしました。面積は458.3km²で、国道288号が東西に横断し、国道349号及び国道399号が南北に縦断し、いわき・新潟間の磐越自動車道が西部を通過し、船引・三春ICが国道288号にアクセスされており、これらが重要な基軸となって、県道、市道の道路網が構成されております。5町村の合併により旧船引町を中心地としながらも、その他の各旧町村にも行政局及び公共施設を配置し、地域の個性を重視したクラスター型都市づくりを「まちづくり」の基本理念としております。

道路の必要性につきましては、大都市圏においては交通手段がいくらでもあり、自動車は日常生活上あまり必要性を感じておられないようですが、地方においては、人の移動に9割以上が自動車に依存しており、生活に欠かせない足となっております。

私の田村市の道路現状は、市道はもちろん、国・県道においても狭隘部も多く、主要通学路であっても歩道の整備が遅れている箇所や、急カーブが連続する道路が多数あり、通勤・通学などの日常生活における安全性や、快適性、利便性など住民の生活環境の向上を図るため、本市内の道路整備は緊急の課題となっております。

特に道路整備で重要となっているのは、生活道路での人優先歩道の整備、

幹線道路での事故多発箇所の対策、渋滞解消のためのバイパス整備が重要であります。

田村市においては、クラスター型の各行政局間を結ぶ交通ネットワークを整備し、地域間の連携・交流の促進を図ることの必要性が市民より強く求められております。また、平成8年度より着手されております国道288号船引バイパス整備が、当初の計画発表より大幅に遅れているため、早期完成を強く願うと共に、高速ネットワークの効率的活用のため、磐越自動車道の平均IC間隔が全国平均より長く、特に、小野ICと船引・三春IC間は20kmあります。中間に位置する阿武隈高原SAにスマートICを設置することにより、広域的な観光ルートづくりや産業の振興、更には、3次救急医療施設がある中核都市、郡山市への搬送時間の短縮などで、高速ネットワークの効率的活用が十分に図られることから、現在、田村市ではスマートICの事業計画を関係機関と協議し進めており、貴局におかれましても阿武隈高原SAへのスマートIC実現に向け、特段のご配慮をよろしくお願いいたします。

また、当市は積雪寒冷地帯であり、冬期間には路面凍結によりスリップ事故等多発箇所も多く、市民の安全のためにも危険箇所解消も急務であります。

今後も「都市と地方の共存共栄」地方の道路整備が著しく遅れている現状を踏まえ、地域格差解消のための道路整備費の拡充を強く望みます。

平成19年 5月 1日

福島県田村市長 冨塚 宥 暁

